



■ 使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版 | 使用評価ソフト: CASBEE横浜2022年版v.1.1

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称) 緑園都市計画	階数	地上4F、地下1階
建設地	横浜市泉区新橋町53-3	構造	S造
用途地域	第1種低層住居専用地域、準防火地域	平均居住人員	150 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	病院	評価の段階	竣工段階評価
竣工年	2024年1月 竣工	評価の実施日	2024年1月17日
敷地面積	1,375 m ²	作成者	大和ハウス工業株式会社
建築面積	814 m ²	確認日	2024年1月18日
延床面積	2,933 m ²	確認者	大和ハウス工業株式会社



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 0.7 ★★☆☆☆☆

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

① 参照値: 184 (kg-CO₂/年・m²)

② 建築物の取組み: 46 (kg-CO₂/年・m²)

③ 上記+②以外の: 138 (kg-CO₂/年・m²)

④ 上記+: 138 (kg-CO₂/年・m²)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです。

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.3

Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.7

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 2.7

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 1.4

LR のスコア = 3.2

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.2

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.3

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.1

3 設計上の配慮事項		
総合	<ul style="list-style-type: none"> 室内環境、サービス性能への配慮。 敷地内外環境への配慮。 エネルギー性能、資源マテリアルの確保に努めている。 	その他 ・特に無し
Q1 室内環境	<ul style="list-style-type: none"> 自然換気性能に配慮している。 条例により全館禁煙としている。 	Q2 サービス性能 <ul style="list-style-type: none"> 十分な個室広さを確保している。 耐用年数の長い部品部材を採用。
LR1 エネルギー	<ul style="list-style-type: none"> BPIm=0.72。 	LR2 資源・マテリアル <ul style="list-style-type: none"> OAフロア、LGS下地を採用、解体時のリサイクル性に配慮。 有害物質を含まない防水工事のプライマーを採用。 ノンフロン断熱材を採用している。
		Q3 室外環境 (敷地内) <ul style="list-style-type: none"> メッシュフェンス設置で防犯性に配慮している。
		LR3 敷地外環境 <ul style="list-style-type: none"> LCCO₂排出率=88%。 光害フェクリストの一部を満たす、広告物照明無し。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■ Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

■ LCCO₂の算定条件等については、「LCCO₂算定条件シート」を参照されたい



4 横浜市重点項目についての環境配慮概要 <非住宅>

各項目について配慮した内容を、該当する番号(①～)を示し記述してください。

建物名称 (仮称) 緑園都市計画

建築物の省エネルギー性能 (E) Energy Saving

重点項目への取組(5点満点)

【省エネルギー性能】

2

■省エネルギー性能 (国土交通省告示に基づく表示)

この建物の設計一次エネルギー消費量 14 %削減



一次エネルギー消費量基準

適合

外皮基準

対象外

受付日

2022年12月28日

■エネルギー対策 (①建物外皮の熱負荷抑制 ②自然エネルギー利用 ③設備システムの高効率化 ④効率的運用)

BPI_m=0.72

健康・快適な職住環境 (W) Smart Wellness Community

重点項目への取組(5点満点)

【快適・働きやすさ】

2

■室内環境対策 (⑨温熱環境対策 ⑩光環境 ⑪空気質環境)

⑪自然換気有効開口面積が居室床面積の1/15以上

⑪条例により全館禁煙としている

■機能性対策 (⑫機能性 ⑬知的生産性向上の取組)

■室外環境(敷地内)対策 (⑭敷地内温熱環境の向上)

防災への配慮 (R) Resilience

重点項目への取組(5点満点)

【防災】

3

■耐用性・信頼性 (⑮耐震・免震 ⑯部品・部材の耐用年数向上 ⑰信頼性)

⑯給水管:VLP、排水管:VP、通気管:VP

地域・まちづくりへの貢献 (T) Township & Townscape

重点項目への取組(5点満点)

【地域・まちづくり】

1

■室外環境(敷地内)対策 (⑱生物環境 ⑲まちなみ・景観 ⑳地域性への配慮)

太陽光発電などの導入

環境配慮技術の導入

(太陽光・熱利用、エネルギーマネジメントシステム以外)

エネルギーマネジメントシステム導入



CASBEE横浜2022年版v.1.1

(仮称)緑園都市計画

バージョン CASBEE横浜2022年版v.1.1

スコアシート		実施設計段階		重点項目		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目		<非住宅>	<集合住宅>	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
Q 建築物の環境品質					-		-		2.3	
Q1 室内環境					0.40				2.7	
1 音環境				2.6	0.15	2.6	1.00		2.6	
1.1 騒音				3.0	0.40	3.0	0.40	-	-	
1.2 遮音				3.0	0.40	3.0	0.40	-	-	
1 開口部遮音性能				3.0	0.40	3.0	0.30	-	-	
2 界壁遮音性能				3.0	0.60	3.0	0.30	-	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				-	-	3.0	0.20	-	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				-	-	3.0	0.20	-	-	
1.3 吸音				1.0	0.20	1.0	0.20	-	-	
2 温熱環境				2.6	0.35	2.6	1.00		2.6	
2.1 室温制御				3.0	0.50	3.0	0.50	-	-	
1 室温		快適・働きやすさ	⑨温熱環境	3.0	0.38	3.0	0.57	-	-	
2 外皮性能		快適・働きやすさ 健康・安心	⑨温熱環境 ⑤外皮性能	3.0	0.25	3.0	0.43	-	-	
3 ゾーン別制御性		快適・働きやすさ	⑨温熱環境	3.0	0.38	-	-	-	-	
2.2 湿度制御				1.0	0.20	1.0	0.20	-	-	
2.3 空調方式				3.0	0.30	3.0	0.30	-	-	
3 光・視環境				2.4	0.25	3.0	1.00		2.6	
3.1 昼光利用				3.0	0.30	3.0	0.30	-	-	
1 昼光率		快適・働きやすさ	⑩光環境	3.0	0.60	3.0	0.60	-	-	
2 方位別開口		快適・働きやすさ	⑩光環境	-	-	-	-	-	-	
3 昼光利用設備		快適・働きやすさ	⑩光環境	3.0	0.40	3.0	0.40	-	-	
3.2 グレア対策				1.0	0.30	3.0	0.30	-	-	
1 昼光制御		快適・働きやすさ	⑩光環境	1.0	1.00	3.0	1.00	-	-	
3.3 照度				3.0	0.15	3.0	0.15	-	-	
3.4 照明制御				3.0	0.25	3.0	0.25	-	-	
4 空気質環境				3.4	0.25	3.1	1.00		3.3	
4.1 発生源対策				3.0	0.50	3.0	0.63	-	-	
1 化学汚染物質		快適・働きやすさ	⑪空気質環境	3.0	1.00	3.0	1.00	-	-	
4.2 換気				3.0	0.30	3.3	0.38	-	-	
1 換気量		快適・働きやすさ	⑪空気質環境	3.0	0.50	3.0	0.33	-	-	
2 自然換気性能		快適・働きやすさ	⑪空気質環境	-	-	4.0	0.33	-	-	
3 取り入れ外気への配慮		快適・働きやすさ	⑪空気質環境	3.0	0.50	3.0	0.33	-	-	
4.3 運用管理				5.0	0.20	-	-	-	-	
1 CO ₂ の監視		快適・働きやすさ	⑪空気質環境	-	-	-	-	-	-	
2 喫煙の制御		快適・働きやすさ	⑪空気質環境	5.0	1.00	-	-	-	-	
Q2 サービス性能				-	0.30	-	-		2.7	
1 機能性				2.4	0.40	3.8	1.00		2.9	
1.1 機能性・使いやすさ				3.0	0.40	5.0	0.60	-	-	
1 広さ・収納性		快適・働きやすさ	⑫機能性	-	-	5.0	1.00	-	-	
2 高度情報通信設備対応		快適・働きやすさ	⑫機能性	-	-	-	-	-	-	
3 バリアフリー計画		快適・働きやすさ	⑫機能性	3.0	1.00	-	-	-	-	
1.2 心理性・快適性				1.0	0.30	2.0	0.40	-	-	
1 広さ感・景観		快適・働きやすさ	⑫機能性	-	-	3.0	0.50	-	-	
2 リフレッシュスペース		快適・働きやすさ	⑫機能性	-	-	-	-	-	-	
3 内装計画		快適・働きやすさ	⑫機能性	1.0	1.00	1.0	0.50	-	-	
1.3 維持管理				3.0	0.30	-	-	-	-	
1 維持管理に配慮した設計		快適・働きやすさ	⑫機能性	3.0	0.50	-	-	-	-	
2 維持管理用機能の確保		快適・働きやすさ	⑫機能性	3.0	0.50	-	-	-	-	
2 耐用性・信頼性				3.0	0.30	-	-		3.0	
2.1 耐震・免震				3.0	0.50	-	-	-	-	
1 耐震性		防災	⑮耐震・免震	3.0	0.80	-	-	-	-	
2 免震・制振性能		防災	⑮耐震・免震	3.0	0.20	-	-	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数				3.2	0.30	-	-	-	-	
1 躯体材料の耐用年数		防災	⑯部品・部材の耐用年数向上	3.0	0.20	-	-	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		防災	⑯部品・部材の耐用年数向上	2.0	0.20	-	-	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		防災	⑯部品・部材の耐用年数向上	3.0	0.10	-	-	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		防災	⑯部品・部材の耐用年数向上	3.0	0.10	-	-	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		防災	⑯部品・部材の耐用年数向上	5.0	0.20	-	-	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔		防災	⑯部品・部材の耐用年数向上	3.0	0.20	-	-	-	-	
2.4 信頼性				2.8	0.20	-	-	-	-	
1 空調・換気設備		防災	⑰信頼性	3.0	0.20	-	-	-	-	
2 給排水・衛生設備		防災	⑰信頼性	2.0	0.20	-	-	-	-	
3 電気設備		防災	⑰信頼性	3.0	0.20	-	-	-	-	
4 機械・配管支持方法		防災	⑰信頼性	3.0	0.20	-	-	-	-	
5 通信・情報設備		防災	⑰信頼性	3.0	0.20	-	-	-	-	
3 対応性・更新性				2.6	0.30	2.0	1.00		2.4	
3.1 空間のゆとり				1.8	0.30	1.0	0.50	-	-	
1 階高のゆとり				1.0	0.60	1.0	0.60	-	-	
2 空間の形状・自由さ				3.0	0.40	1.0	0.40	-	-	
3.2 荷重のゆとり				3.0	0.30	3.0	0.50	-	-	
3.3 設備の更新性				3.0	0.40	-	-	-	-	
1 空調配管の更新性				3.0	0.20	-	-	-	-	
2 給排水管の更新性				3.0	0.20	-	-	-	-	
3 電気配線の更新性				3.0	0.10	-	-	-	-	
4 通信配線の更新性				3.0	0.10	-	-	-	-	
5 設備機器の更新性				3.0	0.20	-	-	-	-	

CASBEE[®] 横浜 | 評価結果 | 4-104



CASBEE横浜2022年版v.1.1
(仮称)緑園都市計画

バージョン CASBEE横浜2022年版v.1.1

スコアシート		実施設計段階		重点項目		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目		<非住宅>	<集合住宅>	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
	6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-			-
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.30	-	-			1.4
1 生物環境の保全と創出		地域・まちづくり	⑱生物環境の保全と創出	1.0	0.30	-	-			1.0
2 まちなみ・景観への配慮		地域・まちづくり	⑲まちなみ・景観への配慮	1.0	0.40	-	-			1.0
3 地域性・アメニティへの配慮				2.5	0.30	-	-			2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		地域・まちづくり	⑳地域性への配慮	2.0	0.50	-	-			-
3.2 敷地内温熱環境の向上		快適・働きやすさ	⑲敷地内温熱環境の向上	3.0	0.50	-	-			-
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-	-	-			3.2
LR1 エネルギー				-	0.40	-	-			3.2
1 建物外皮の熱負荷抑制		省エネルギー性能	①建物の熱負荷抑制	5.0	0.20	-	-			5.0
2 自然エネルギー利用		省エネルギー性能	②自然エネルギー利用	3.0	0.10	-	-			3.0
3 設備システムの高効率化		省エネルギー性能	③設備システムの高効率化	2.7	0.50	-	-			2.7
4 効率的運用				3.0	0.20	-	-			3.0
集合住宅以外の評価				3.0	1.00	-	-			-
4.1 モニタリング		省エネルギー性能	④効率的運用	3.0	0.50	-	-			-
4.2 運用管理体制		省エネルギー性能	④効率的運用	3.0	0.50	-	-			-
集合住宅の評価				-	-	-	-			-
4.1 モニタリング		省エネルギー性能	④効率的運用	-	-	-	-			-
4.2 運用管理体制		省エネルギー性能	④効率的運用	-	-	-	-			-
LR2 資源・マテリアル				-	0.30	-	-			3.3
1 水資源保護				3.0	0.20	-	-			3.0
1.1 節水				3.0	0.40	-	-			-
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.0	0.60	-	-			-
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	0.70	-	-			-
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.30	-	-			-
2 非再生性資源の使用量削減				3.3	0.60	-	-			3.3
2.1 材料使用量の削減				2.0	0.11	-	-			-
2.2 既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.22	-	-			-
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用				3.0	0.22	-	-			-
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用				3.0	0.22	-	-			-
2.5 持続可能な森林から産出された木材				-	-	-	-			-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み				5.0	0.22	-	-			-
3 汚染物質含有材料の使用回避				3.6	0.20	-	-			3.6
3.1 有害物質を含まない材料の使用				4.0	0.30	-	-			-
3.2 フロン・ハロンの回避				3.5	0.70	-	-			-
1 消火剤				-	-	-	-			-
2 発泡剤(断熱材等)				4.0	0.50	-	-			-
3 冷媒				3.0	0.50	-	-			-
LR3 敷地外環境				-	0.30	-	-			3.1
1 地球温暖化への配慮				3.4	0.33	-	-			3.4
2 地域環境への配慮				3.0	0.33	-	-			3.0
2.1 大気汚染防止				3.0	0.25	-	-			-
2.2 温熱環境悪化の改善				3.0	0.50	-	-			-
2.3 地域インフラへの負荷抑制				3.0	0.25	-	-			-
1 雨水排水負荷低減				3.0	0.25	-	-			-
2 汚水処理負荷抑制				3.0	0.25	-	-			-
3 交通負荷抑制				3.0	0.25	-	-			-
4 廃棄物処理負荷抑制				3.0	0.25	-	-			-
3 周辺環境への配慮				3.1	0.33	-	-			3.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40	-	-			-
1 騒音				3.0	0.50	-	-			-
2 振動				3.0	0.50	-	-			-
3 悪臭				-	-	-	-			-
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制				3.0	0.40	-	-			-
1 風害の抑制				3.0	0.70	-	-			-
2 砂塵の抑制				-	-	-	-			-
3 日照阻害の抑制				3.0	0.30	-	-			-
3.3 光害の抑制				3.7	0.20	-	-			-
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策				4.0	0.70	-	-			-
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策				3.0	0.30	-	-			-
上記以外の重点項目										
<事務用途>										
知的生産性向上への取組		快適・働きやすさ	⑬知的生産性向上への取組	1.0	-	-	-			-
<住宅用途>										
健康と安心										
1 化学汚染物質の対策		健康・安心	⑥健康対策	-	-	-	-			-
2 適切な換気計画		健康・安心	⑥健康対策	-	-	-	-			-
3 結露・カビ対策		健康・安心	⑥健康対策	-	-	-	-			-
4 犯罪に備える(共用部の防犯対策)		健康・安心	⑦防犯対策	-	-	-	-			-